

中学校特別支援教室 における巡回指導の実際



小平第四中学校
特別支援教室 一橋

- 1 一橋教室の実際
- 2 自立活動について
- 3 ケースと対応
- 4 まとめ

1 一橋教室 の実際

1年間の流れ(例)

4月	学校生活支援シート作成 新入生保護者面談 連携型個別指導計画作成 一学期指導開始	10月	連携型個別指導計画作成 前期評価 教室見学会 校内授業体験（終）
5月		11月	入室申込締切 校内判定（チェックシート記入）
6月	保護者説明会 校内判定（チェックシート記入）	12月	二学期指導終了 校内判定（チェックシート記入） （校内委員会）
7月	一学期指導終了 保護者面談（在校生、小6） 教室見学会	1月	三学期指導開始 在校生保護者面談
8月	保護者面談（在校生、小6） 教室見学会	2月	新入生保護者面談 教育課程作成
9月	二学期指導開始 連携型個別指導計画評価	3月	三学期指導終了 学校生活支援シート評価 連携型個別指導計画評価

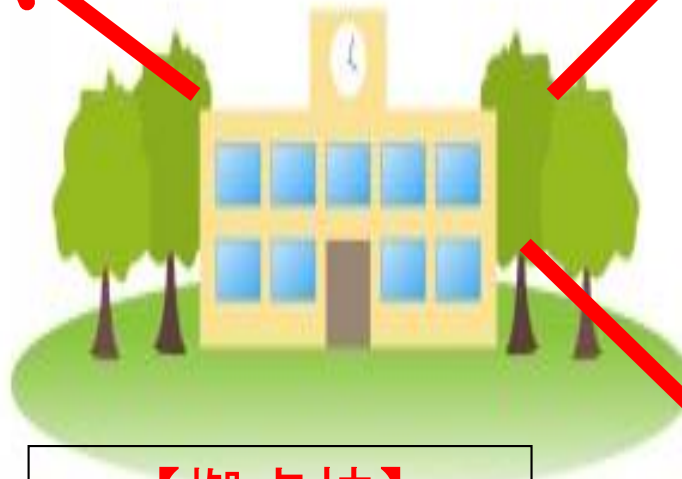
一週間の流れ(令和4年度)



小平第五中学校
月・火・木曜日



小平第二中学校
月・火・水・金曜日



【拠点校】
小平第四中学校
指導日は担当教員に
よって異なる



小平第一中学校
月・火・水・金曜日

1日の流れ(例)



①拠点・巡回校
へ直接出勤

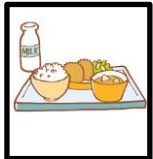


②専門員等との
打ち合わせ



1~4
限

③個別・小集団学
習



④給食



5.6
限

⑤個別・小集団
学習



⑥担任への報告



⑦リモートで一橋
教員打ち合わせ



⑧専門員との打
ち合わせ

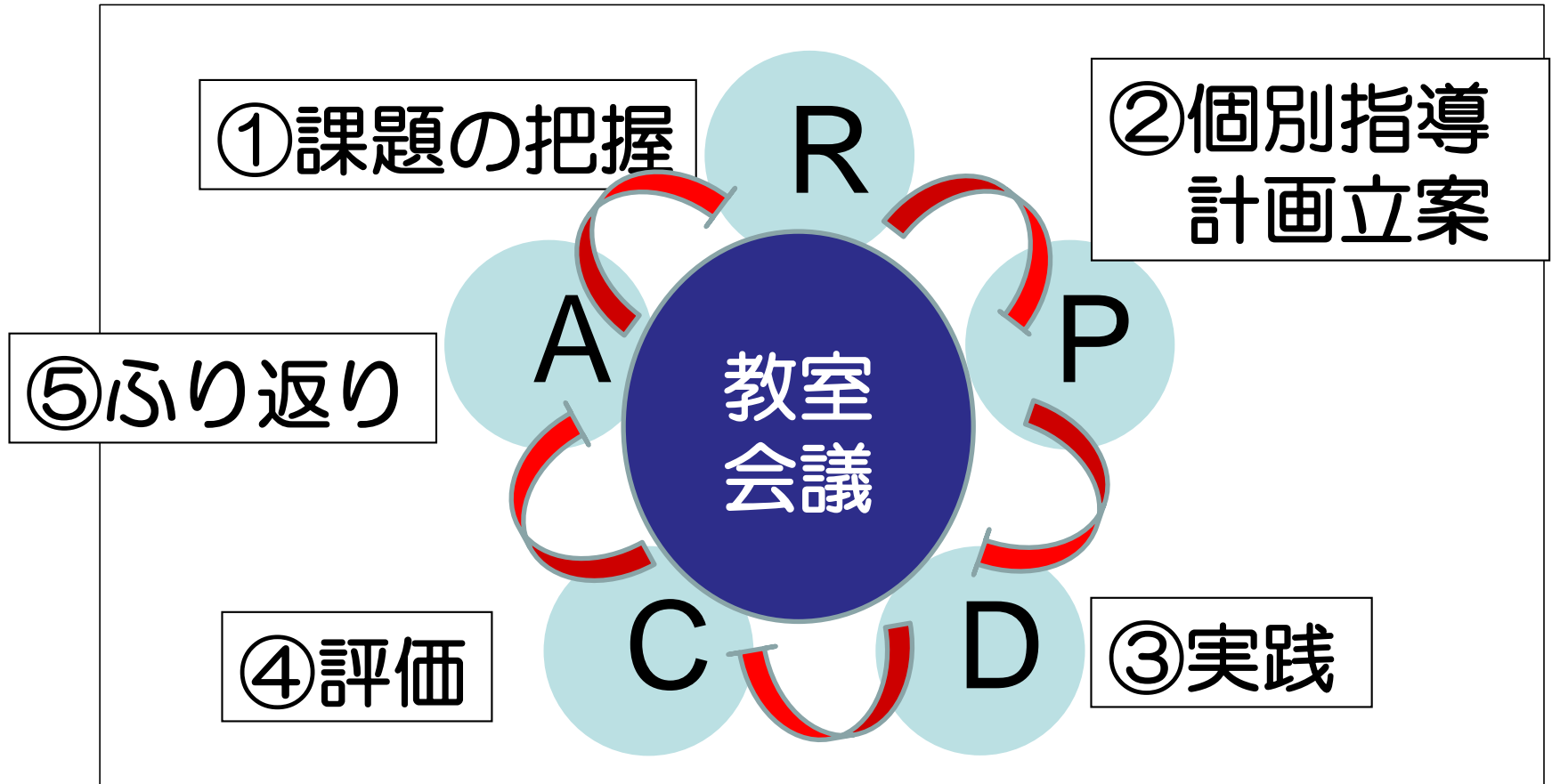


⑨移動可能な日
は拠点校へ移動

時間割(例)

	月			火			水			木		金		
巡回校	一中	四中	五中	一中	二中	五中	一中	二中	四中	四中	五中	一中	二中	四中
生徒	3	4	8	4	8	6	7	3	3	6	10	5	8	1
巡回指導教員	1	1	2	1	2	1	2	1	1	2	2	1	2	1
1	教員・専門員打ち合わせ			個別・小集団学習										
2	個別・小集団学習													
3	個別・小集団学習													
4	個別・小集団学習													
5	個別・小集団学習													
6	個別・小集団学習						教員・専門員打ち合わせ			個別・小集団学習				
会議	運営会議 初任研 都情研 市教研 校内委員会 巡回指導教員・専門員研修会													

指導の流れ



常にRPDCAを意識しながら、生徒の学習状況を評価し、課題を改善していく。

勤務形態

- ①兼務発令が出ているため、巡回校にいる間は巡回校の教員として勤務する。
- ②巡回校の校内委員会やケース会にはできるだけ参加する。
- ③拠点校の分掌に所属し、職員会議等に参加する。行事や部活動も担当する。ただし、巡回業務に支障がない範囲に限る。
- ④拠点校が行事等の振替休業日の場合は、巡回指導も休みとなる。

2 自立活動

について

自立活動とは!?

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章抜粋

- 特別支援教室の指導内容は自立活動である。
- 障害による学習上または生活上の困難を改善、または克服することを目的とする。
- 6区分27項目から個々の生徒の実態に応じて必要な項目を選定する。 *資料1参照
- 個々の生徒の的確な実態把握に基づき、個別指導計画を作成し指導する。
(特別支援教室に通う生徒は全員作成する)

自立活動の内容

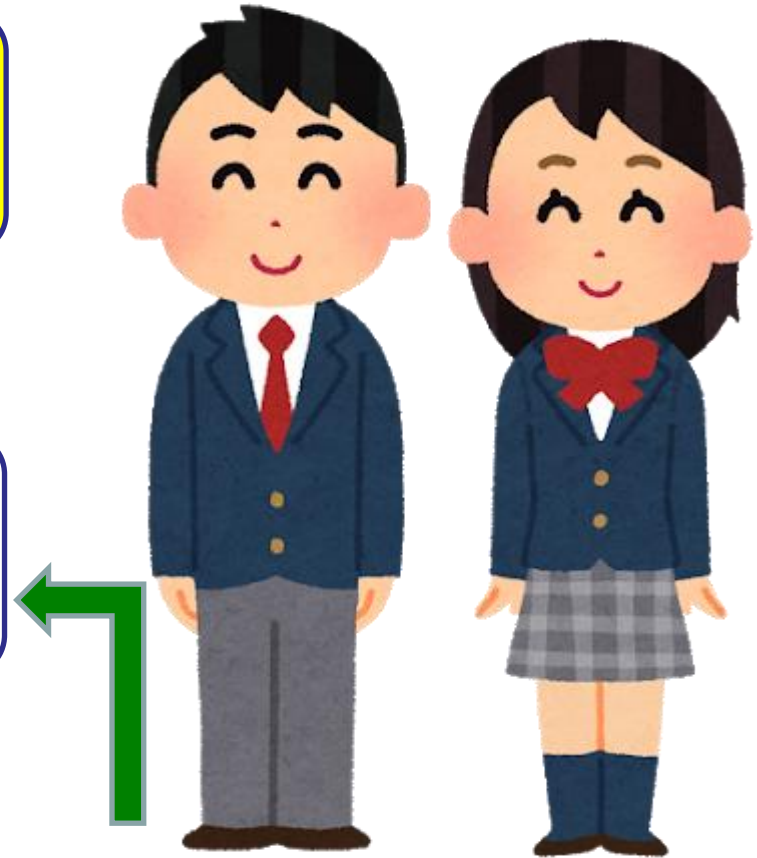
自立活動 6区分27項目	意味すること
1 健康の保持	
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成	覚醒と睡眠など健康状態の維持・改善に必要な生活のリズムを身に付ける
(2) 病気の状態の理解と生活管理	自分の病気の状態を理解し、それに基づく生活の自己管理ができるようにする。
(3) 身体各部の状態の理解と養護	病気や事故等による身体部位の状態を理解し、保護や防止ができるようにする。
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整	自分の障害特性を理解し、生活環境の調整ができるようにする。
(5) 健康状態の維持・改善	日常生活における適切な健康の自己管理ができるようにする。
2 心理的安定	
(1) 情緒の安定	安定した情緒の下で生活できるようにする。
(2) 状況の理解と変化への対応	変化する状況を理解して、適切に対応することができるようにする。
(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	自分の障害の状態を理解して、学習上、生活上の困難を改善・克服しようとする意欲の向上を図る。
3 人間関係の形成	
(1) 他者との関りの基礎	他者からの働きかけを受け止め、それに応ずることができるようにする。
(2) 他者の意図や感情の理解	他者の意図や感情を理解し場に応じた適切な行動をとることができるようにする。
(3) 自己の理解と行動の調整	自分の得意不得意を理解し、状況に応じた行動をとることができるようにする。
(4) 集団への参加の基礎	集団に参加するための手順や決まりを理解し、集団活動に参加できるようにする。
4 環境の把握	
(1) 保有する感覚の活用	保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるようにする。
(2) 感覚や認知の特性への対応	自分に入ってくる情報を適切に処理できるようにする。
(3) 感覚の補助及び代行手段の活用	各種の補助機器を活用したり他の感覚や機器での代行的にできるようにする。
(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握	感覚器官、代行手段を総合的に活用して、的確な判断や行動ができるようにする。
(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	概念の形成を図り、認知や行動の手掛かりとして活用できるようにする。
5 身体の動き	
(1) 姿勢と運動・動作の基礎基本的技能	姿勢保持や運動・動作等の基本的技能を、改善及び習得できるようにする。
(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	補助的手段を活用して、姿勢保持や運動・動作ができるようにする。
(3) 日常生活に必要な基本動作	身辺処理及び学習のための基本動作などを身に付けることができるようにする。
(4) 身体の移動能力	日常生活に必要な移動能力の向上を図る。
(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	作業に必要な基本動作を習得し、その巧緻性や持続性の向上を図るとともに、作業を円滑にする能力を高める。
6 コミュニケーション	
(1) コミュニケーションの基礎能力	コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付ける。(身振り、各種機器等)
(2) 言語の受容と表出	相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりする等ができるようにする。
(3) 言語の形成と活用	コミュニケーションを通して体系的な言語を身に付けることができるようにする。
(4) コミュニケーション手段の選択と活用	コミュニケーション手段を適切に選択・活用し、コミュニケーションが円滑にできるようにする。
(5) 状況に応じたコミュニケーション	場や相手の状況に応じて、主体的なコミュニケーションを展開できるようにする。

特別支援教室・指導の目的

在籍学級における
よりよい適応

目指す姿(退室目標)

生徒の実態



改善又は克服する
課題の明確化

通室生の課題 1

対人関係

コミュニケーション能力

注意の集中

- ・ 共同作業ができない
- ・ ひとりである
- ・ 他人と話せない
- ・ 趣味に没頭する
- ・ 予定変更 pani ック
- ・ 提出物を忘れる
- ・ 覚えてもすぐ忘れる

興味とこだわり

行動

認知・推論

通室生の課題 2

聞く

話す

読む

書く

数・計算

運動

- ・教科書が読めない
- ・何が言いたいのか？
- ・誤字・脱字が多い
- ・四則計算が苦手
- ・キャッチボールに苦戦
- ・漢字の偏とつくりが逆

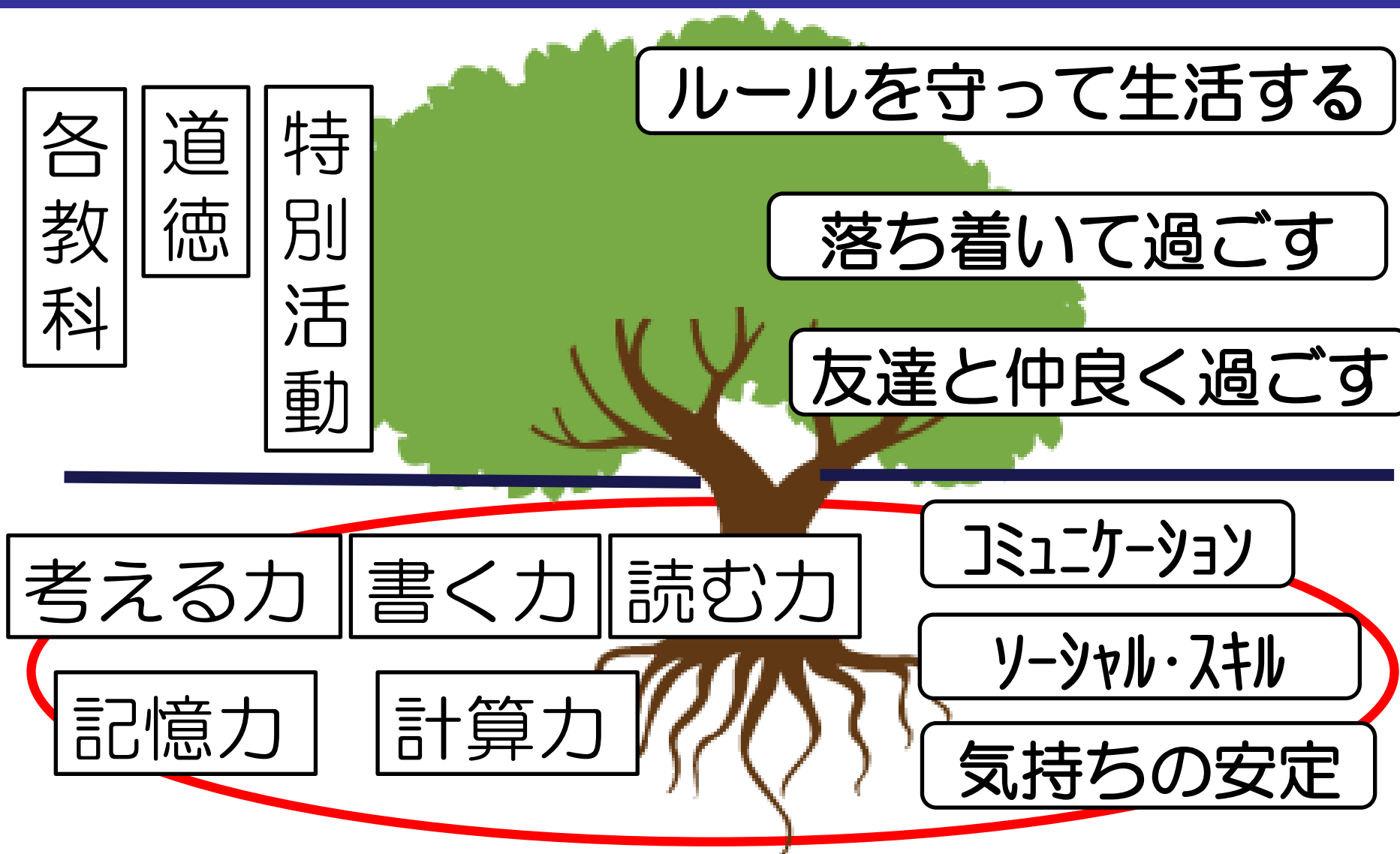
通室生の課題 3

行動

情動

- ・ 他人と口論になる
- ・ 指示や規則に従わない
- ・ 気に入らないと暴言をはいたり物を壊す
- ・ 家族や周囲の人に暴力をふるう
- ・ チックのような症状がある
- ・ 見知らぬ人に声を掛けたりついていく
- ・ 衝動的な行動をとってしまう

自立活動・指導内容の考え方



自立活動・指導内容の例

1 健康の保持

- ・生活リズム、身だしなみ、スケジュール

2 心理的安定

- ・長所と短所、リフレーミング、いいところ探し

3 人間関係の形成

- ・他者理解、感情コントロール、状況理解

4 環境の把握

- ・聞き取り課題、集中して考えよう

5 身体の動き

- ・微細運動、粗大運動

*資料2参照

6 コミュニケーション

- ・上手に話そう、断ろう、頼もう

個別・小集団学習案

学期回数	指導内容		
	6区分	項目	指導例
一学期	① 6	コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力 説明、自己紹介、目標、アセスメント
	① 5	身体の動き	(1) 動作の基本的技能 粗大、微細運動のアセスメント
	① 3	人間関係の形成	(4) 集団への参加の基礎 名前ゲーム、コピーゲーム、人狼ゲーム
	① 4	環境の把握	(2) 感覚や認知の特性理解と対応 基礎能力UPパズル(見る、聞く、記憶)
	① 2	心理的な安定	(1) 情緒の安定 怒りのコントロール
	① 1	健康の保持	(1) 生活リズムや生活習慣の形成 生活リズム、身だしなみ
	① 3	人間関係の形成	(3) 自己理解 自尊感情、自分のいいところ探し
	① 5	身体の動き	(1) 動作の基本的技能 コーディネーション(粗大・微細運動)
	① 6	コミュニケーション	(2) 表出・受容 1学期のまとめ、協力ゲーム
二学期	① 6	コミュニケーション	(5) 状況に応じたコミュニケーション 会話をつなげよう「夏の思い出」
	① 5	身体の動き	(1) 動作の基本的技能 コーディネーション(粗大・微細運動)
	① 4	環境の把握	(2) 感覚や認知の特性理解と対応 フラッシュ、きくきくドリル
	① 1	健康の保持	(1) 生活リズムや生活習慣の形成 スケジュール管理、提出物
	① 3	人間関係の形成	(3) 自己理解 自己理解、自分のトリセツ作成
	① 3	人間関係の形成	(2) 他者理解 誰の答え?、相手のいいところ探し
	① 4	環境の把握	(4) 状況把握 協力ジェスチャー
	① 5	身体の動き	(1) 動作の基本的技能 コーディネーション(粗大・微細運動)
	① 2	心理的な安定	(1) 情緒の安定 不安のコントロール
	① 6	コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎能力 話型「上手に頼む、上手に断る」
	① 1	健康の保持	(1) 生活リズムや生活習慣の形成 計画をたてよう「テスト対策」
	① 3	人間関係の形成	(3) 自己理解 自分の長所と短所を知る
	① 3	人間関係の形成	(2) 他者理解 相手の気持ちを考える
	① 5	身体の動き	(1) 動作の基本的技能 コーディネーション(粗大・微細運動)
三学期	① 6	コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎能力 2学期のまとめ、コンセンサスゲーム
	① 6	コミュニケーション	(5) 状況に応じたコミュニケーション 冬休みの思い出、今年の一文字漢字
	① 5	身体の動き	(1) 動作の基本的技能 コーディネーション(粗大・微細運動)
	① 4	環境の把握	(4) 状況把握 3ヒントクイズ、絵を見て短文づくり
	① 2	心理的な安定	(2) 状況理解と変化への対応 リフレーミング(見方を変える)
	① 3	人間関係の形成	(2) 他者理解 こんなときどうする?
	① 1	健康の保持	(4) 生活環境の調整 困った時に助けを求める
	① 5	身体の動き	(1) 動作の基本的技能 コーディネーション(粗大・微細運動)
	① 6	コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎能力 1年間まとめ、コンセンサスゲーム

3 ケース と対応

連続性のある多様な学び



①A君のケース

社会面の課題

- 友達と上手く関係が作れない。
- 相手の感情・立場を理解しないで話す。
- 自分なりの独特な手順があり、変更や変化を嫌う。
- 他者のルール違反が許せない。
- 物音に過敏に反応する。

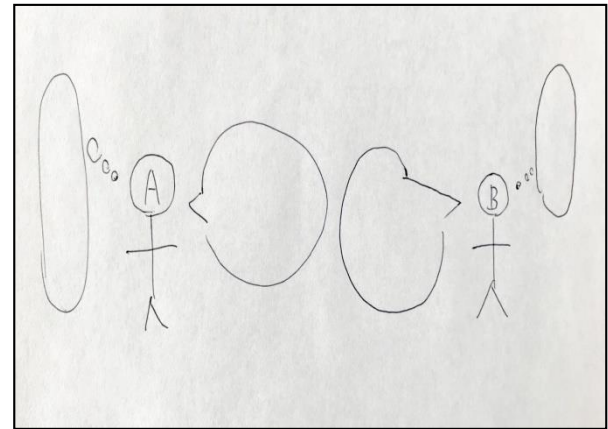


A君への支援例

簡潔な言葉かけ、視覚支援

<個別学習>

コミック会話、マインドマップ、ソーシャルストーリー等を使い、出来事を視覚的に整理しながら、どうしたら上手く対処できるか考えさせる。



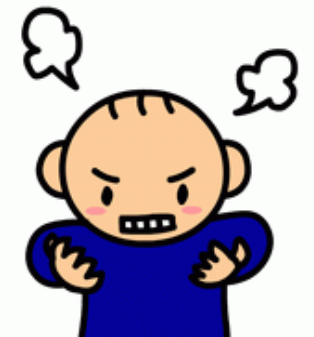
<小集団学習>

「相手の気持ちを考える」「暗黙の了解」等をテーマにとりあげ、生徒同士で学び合う。

② B君のケース

行動面の課題

- 体のどこかが常に動いていて落ち着きがない。
- すぐカーッとなる。
- すぐ気が散る。
- 忘れ物が多い。
- ケアレスミスが多い。



B君への支援例

Small stepの目標を立て、できたらほめる

<個別学習>

「フラッシュ」「聞きとりドリル」等
注意・集中を高めるトレーニング

<小集団学習>



「怒りのコントロール」「ストレス対処法」
等をテーマにとりあげ、生徒同士で学び合う。

③ C君のケース

学習面の課題

- 漢字を書くことが困難。
- 漢字が読めないなので、教科書や問題が読めない。
- 英語の小文字が書けない。
bをdと書き間違えてしまう。
- 英単語の読み書きが困難。



C君への支援例

アセスメントをし、学び方を工夫する

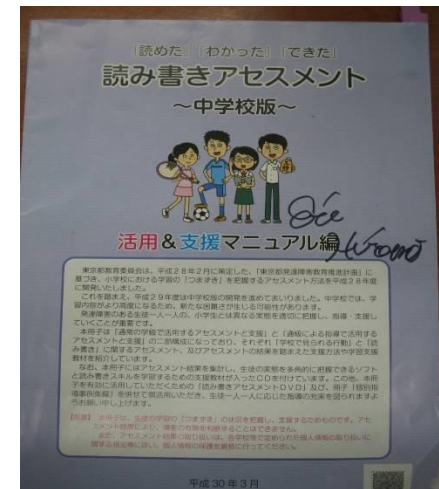
<漢字>

- ・ 見て覚えるのが得意 →例) 偏と旁を合わせて覚える
- ・ 聞いて覚えるのが得意 →例) 唱えながら覚える
- ・ 考えて覚えるのが得意 →例) 意味づけして覚える

<作文>パソコンで打ち込ませる。

<英語>フォニックスを学ばせる。

*読み上げ、ルビふり、I padなどの
合理的配慮の検討



4 まとめ

Q.お悩み相談～質問編～

Q1.生徒をどうやって見とるの？

Q2.担任や保護者との連携は？

Q3.授業を作る上で大切なことは？

Q4.教員以外はどんな人達がいるの？

Q5.卒業後の進路先は？

A.お悩み相談～解答編～

- A1. 行動観察、面接、検査、保護者からの聞き取り
- A2. 日誌による情報交換・共有、各種面談
保護者会、一橋だより
- A3. この授業で何を学ばせたいかを明確にする。
常に、生徒の将来の自立を見据えて考える。
- A4. 専門員、巡回心理士、特別支援教育コーディネーター等
- A5. 都立高校（普通科、職業科、定時制）
私立高校、通信制高校、専門学校、特別支援学校